



# バンコク便り



## 1. はじめに

6月後半のタイでは1日あたりの新型コロナ新規感染者数が2,000人前後と減少傾向が続いています。7月からはついに、入国申請システムの「タイランド・パス」が廃止されるため、今まで求められていた保険加入義務（加入は推奨）や事前登録が不要となる予定です。引き続き空港チェックインおよびタイ到着時にワクチン接種証明書または陰性証明書（72時間以内）の提示は必要となりますが、従来と比べ手続きが非常に簡単になり、世界各国からさらに訪タイ者の増加が予想され、活気のあるタイに戻っていきそうです。

## 2. 現地ビジネス情報（タイの航空機産業 Vol. 1）

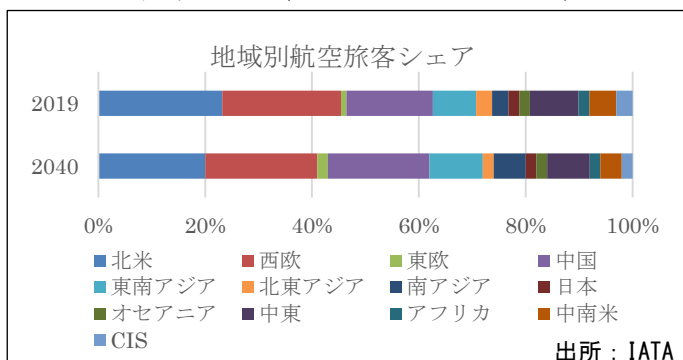
タイの製造業と言えば自動車を中心ですが、数年前から次なる産業として、航空機産業・医療機器・EV車といった産業が注目を集めています。そこで今月号から複数回に分けて、タイにおける航空機産業の現状と今後について、まずは航空機産業の市場推移を把握するために、世界とアセアンの旅客数の推移をレポートします。

国際民間航空機関によると、コロナ禍前の2019年と比較すると、2021年の世界の航空旅客数が49%減の23億人となっています。その結果、航空会社の損失規模は、2021年が3,240億ドルとなつてはいますが、2020年の3,720億ドルとの比較では改善が見られています。なお、航空旅客数は2030年には56億人と2021年比で2倍以上となるとされており、それ以降も更なる拡大が期待されています。

旅客需要回復の見通しは、2022年はコロナ禍前の約9割、2023年には同水準を5%超えると予想されています。2023年以降も回復・拡大傾向となりますが、コロナ禍によるビジネス様式の変化に伴うリモートワークの定着・海外出張の機会の減少などの影響で、当初の予測よりも7%下回ると予想されています。

アセアン地域では、他の地域と比較して回復が遅く、国際航空運送協会（IATA）によると、コロナ禍前の2019年に回復するのは2025年（109%）と予想されています。短期的にみると欧米と比較して市場規模の拡大が遅れているように感じますが、2040年には欧米が2-3%のシェアを失う一方で、アジア・アセアン地域のシェアが7.3%拡大されるとしています。

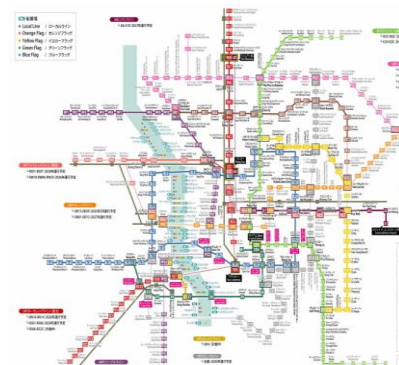
コロナ禍の影響で成長が鈍化されてしまいましたが、今後、航空業界は確実に毎年成長を続けることが予想されています。この拡大を背景にタイ国内における航空機産業、特に航空機メンテナンス分野の成長が期待されていますので、今回のレポートでは、同分野の現状についてお伝えします。



## 3. 現地トピックス（最新版バンコク路線図）

タイ国政府観光庁ホームページに最新版のバンコク路線図が公開されました。タイを訪れたことがある多くの方がBTS（高架鉄道）スクンビット線やシーロム線、エアポートリンクなどを利用したことがあると思いますが、ここ数年だけでも計画中の路線を含め大きく変化しています。

新路線の開通や延伸などでタイ在住者でもあまり利用しないゾーンもありますが、利用してみると新たな発見や渋滞なしで主要観光地までいけるなど、非常に便利です。例えば今までタクシーなどを利用していた王宮付近の観光や美しい天井画がある寺院ワット・パークナムなどにも、MRT（地下鉄）やBTSで行けるようになってきました。これからも開発が行われ、より便利になってくることが予想されるため、ぜひ最新版の路線図をご参考に旅の計画を立ててみてはいかがでしょうか。なお、車両内は冷房が非常に効いているため、20~30分以上乗車する場合は、長袖の着用をお勧めします。



最新版のバンコク路線図

路線図 PDF: [bangkok-routemap2022.pdf](http://bangkok-routemap2022.pdf) ([thailandtravel.or.jp](http://thailandtravel.or.jp))